

いきいき健診スタート

700人、3回目追跡調査

弘前



指先の器用さの調査を受ける受診者（左）

弘前大学と弘前市が連携し、認知症の予防と解明を

目的に高齢者の健康状態を10年間追跡調査する「いき

いき健診」が24日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。初日は100人が参加し、味覚や歩行、記憶力など多方面から認知機能を調べる項目を含めた20ブースを巡って健康状態を調べた。30日までの7日間で約700人が受診する予定。

健診事業は同大や九州大学など全国8拠点が全国1万人を対象に行っている大規模調査の一環で、2016年度に始まった。同市では参加登録した市内の高齢者約2400人をおよそ半数に分けて、16、17年度をそれぞれベース調査の年とし、隔年で追跡調査を実施している。今回の受診者は17年度に初めて参加した人で、19、21年度に続いて3

回目の追跡調査となった。27年度までに5回追跡調査を受けることになる。

24日の初日は桜田宏市長が視察し、体組成や歩行調査などを体験した。会場では金属の部品を板にはめて指先の器用さを見る調査や

物語を聞いてから数分後の記憶力を試す調査、四つの異なる味覚を識別する調査などとされる調査を中心に行われた。

健診を終えた太田エツ子さん(75)は「認知症はまだ大丈夫だと思うが、毎回検査を受けることに記憶力

の衰えを感じる。味覚も分りにくくなっているの、普段の食事で味の濃いものやしょっぱいものは避けるようにしたい」と話した。

健診を取り仕切る弘大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長は「認知症の早期発見と、どういった人がなりやすいかを調べるのが目的。予防法が分かれば健康寿命の延伸に役立つし、具体的な対策を見つけない」と述べた。

（石田紅子）